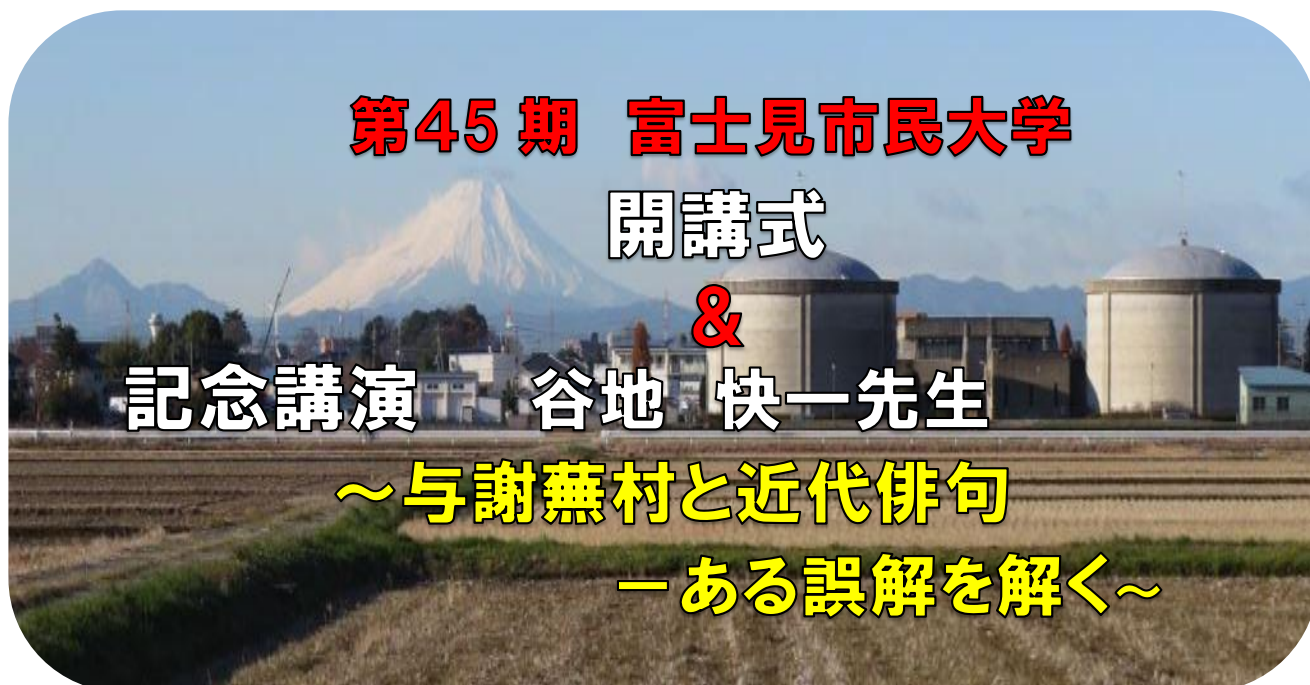




第1部 開校式

開催日：令和4年6月4日（土）

開催時間：午前10時～10時30分

会場：鶴瀬コミュニティセンターホール

NPO法人富士見市民大学の令和4年の第45期の開講式は、6月4日（土）午前10時より三上監事の司会で、鶴瀬コミュニティセンターホールを会場にて開催された。

新型コロナウイルス感染症対策のため、参加した正会員等に手指の消毒、検温をお願いし、三密にならないように細心の警戒をしながらの実施です。

瀬戸理事長より、第45期の開講の宣言と市民大学の事業として9講座と4本の公開講座の開催を述べられ開講式が始まりました。次に、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、自粛生活にすっかり慣れてしまい、自宅で『読書』『ひとり思索』ふけて過ごす人が多いようです、しかし、『独学固陋』ということばがあるように、じつは、これは好ましい学習スイルではないようで、『ひとりよがり、独善的、夜郎自大』になりやすい」との警鐘を鳴らされました。



また、孔子の言葉の、「学びて思はざれば則ち昏し、思いて学ばざれば、則ち危うし」との言葉の紹介とその本意として、「学んだだけでよく考えなければものにならないですよ、独学、思索にふけるだけでなく、先生から学ぶことがなければ、危うし。そして、学問とは、学習と思索とが相伴うべきことが必要である」と解説されました。



挨拶 瀬戸理事長

そして市民大学で、「専門の道を究めた先生から学んでいただき、思考短絡、バイアス（偏見）を除くためにも、是非学んで頂きたい」との言葉で締めくくられました。

次に山口教育長は欠席のため、中田鶴瀬公民館長が教育長の挨拶文を代読されました。

その主な内容は、「今年度の講座案内の感想として、『年代でいえば、原始・古代から現代まで、場所でいえば地元。富士見市の話からニューギニア山地の文化まで。まさに古今東西の幅広い内容に触れられるものである』とされ、『市民大学での学びによる新たな出会い、生活に潤いがもたらされること』の期待と『健康には十分に留意され、学生生活をエンジョイして欲しい』と受講生へのきづかい。」でした。

その後、全理事の紹介と担当業務と担当講座の紹介があり、無事開講式が終わりました。

注：独学固陋とは「1人きりで学ぶと狭い考えを持つようになってしまう」という意味。独学孤陋（どくがくころう）とも書きます。



受付 検温風景



理事紹介



第2部 基調講演

講 師：谷地 快一先生 俳号は海紅
テ ー マ：与謝蕪村と近代俳句—ある誤解を解く
開催時間：午前10時0分～12時30分

講演に先立って理事長より谷地快一先生の俳号が海紅で、「芭蕉会議」の主催である事など、詳細にプロフィールの紹介が有りました。

また、8年前に谷地先生に講師依頼をした時は、先生の体調が悪く実現が来なかった事、その時の俳句に感銘を受けた等のエピソードも紹介された。



講 師：谷地 快一先生

講演の要約

文学史を山脈にたとえ、その頂点に位置づけられる人々を並べる松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶（一八二七没）は俳諧の世界の人。文学の原型が明治以降に小型化して俳句と呼ばれる理由も、併せて与謝蕪村の句と一緒に学んだ。

蕪村の略歴

蕪村は江戸中期の画家・俳人で天明三年（一七八三）没。享年 68。十代の後半に江戸に出て、夜半亭巴人に俳諧を学ぶ。画は独学。

三十六歳の秋に京都移住。画業を生業にすべく研鑽。五十一歳ころから俳諧にも熱を入れ、五十五歳で先師の夜半亭を継ぎ、中興俳諧史を支える。

また、画家としては南宗画（文人画）において池大雅（七歳年少）と双壁。なお趣味に徹して奇抜を好んだ絵師伊藤若冲は同年である。

手話通訳と要約速記



講師先生と要約筆記・手話通訳打合せ

第一章

俳諧の原型として「大和物語」168段の歌を紹介し、俳諧の原型である連歌を紹介され、併せて。近代俳句の祖と言われる松岡子規の、「連俳非文化論により俳諧が下火になった」との解説があった。

第二章

上田秋成（雨月物語の作者）による蕪村追悼句文では、「蕪村は、草庵に籠り漢詩を読んだり、西行に習い笠をかぶり全国を旅したりした松尾芭蕉の教えをまね、漢詩を日本語で読

んだ『かな書きの名人』と評した。

ただ、晩年の松尾芭蕉は、漢詩を筆頭とした教養の世界から出たので、蕪村は芭蕉を尊敬はするが美化はしなかった。

第三章

詠物（自然や鳥獣草木を主題とすえ詩）と詠史（歴史的な事柄をを主題とする詩）の他に、創造（虚構）を唱え、「空想と写実を合同して一種（非空非実）の大文学を製出せらるべからず。…」とし、「空想（主観）には写実（客観）を補う役割があり、写実（客観）には空想（主観）を補う役割があり、創造（虚構）とはそういうもの（非空非実）であるとの考えである。

蕪村を称賛した正岡子規は30代半ば亡くなったこともあり、重んずべきは客観（対象・写実）なのか、主観（感動・空想）なのか、あるいは主観と客観の調和（合同）なのかが整理されていなかった。

弟子の高浜虚子（ほととぎす主宰）は、子規の教えを忠実に深めていく立場になく、客観写生を唱え、子規の（非空非実）を修正。写実の原則が揺らいだ。

第四章

子規は8歳で漢詩が読んで作っているが、どこで学んだのか不明であるが、武家でなら必須の教養である。

漢詩のフレーズ、虫食いの漢文を埋め等で学んだのではと思われる。

子規の俳論をもとに、蕪村の代表句を漢詩文の詠物と詠史とに分け、詠物として5首、詠史として6首の紹介が有った。

第五章

近代詩の巨星である萩原朔太郎は、蕪村を自分と同じ境遇と思い、境涯（身の上を主題とした抒情詩）として分類した蕪村の6首の紹介があった。

ただ、朔太郎は自分の心境を投影していたが、蕪村の心根まではふみこんでいなかったようです。

最後に蕪村30歳余り折、結城で親交のあった早見晋我が75歳で亡くなった時、墓前に追悼の詩を捧げたのが「北寿老仙をいたむ」のです。

この時の名前が釈蕪村百拝書となっているので、もう仏門に入っていたようです。



閉会の挨拶

中田鶴瀬公民館長

最後に中田鶴瀬公民館長から、「俳句の前身である俳譜とか、蕪村はかな書きの名人であった等、知らなかった事を学ばせて頂いた。」との、谷地先生への感謝の言葉と参加者へのお礼の言葉で締めくくられた。

まとめ

本日の演題である「与謝蕪村と近代俳句 ある誤解を解く」の通り、蕪村や俳句についても間違って覚えていたことがわかり、これから始まる文学講座が楽しみになる基調講演であった。

また。今回の公開講演会で初めて要約筆記と手話通訳が付きました。
市民大学の運営にも新しい風を感じられる基調講演でもあった。



アンケート集計結果

1. 講演会について

項 目	満足	普通	不満足	合計	満足度
内容について	37	0	1	38	97.4%
講師について	36	0	0	36	94.7%
スタッフの対応について	27	9	0	36	71.0%
合 計	100	9	1	110	90.9%
満足度	87.7%				

不満について

- ・下地がないので私にとって難しかった。なので不満足とした。
理解すれば満足になると思うが
- ・非常に たいへん楽しい時間でした
- ・濃密な内容でついて行くのが大変だったが新しいことが知れて良かった
- ・久しぶりに勉強させていただきました

- ・「満足」だが　しかし一回聞くだけでは難しい
- ・この講話により蕪村のみならず俳句の世界全体を知ることができました。
有り難うございました
- ・要約速記　努力を多とする。この先生を選んでいただいた事務局にも感謝します。
- ・難しい内容だった。俳句の理解不足のため。
- ・あまり興味もなかったですが拝聴し俳句の面白さ、奥深さを少し知ったように思います。大学時代に戻ったような懐かしさを覚えました
- ・文字を書いていたき、聴こえ悪い私は助かった。
- ・俳句の認識を新たにしました
- ・休憩がなかった。　〇〇時もそく対応がとれてない。
- ・休憩がほしかった。
- ・手話通話、要約速記者　素晴らしかった。要約速記の画面の一部が光って消えたのは残念

2. 来期以降の講座、講演会について、取り上げて欲しいテーマテーマや講師名などをご記入下さい

- ・前年度の帯津良一先生のテーマは良かった。それらの類のものが良い
- ・科学的な内容のことが知りたい。例えば　免疫　ワクチン等
- ・縄文時代など日本の古代史。
- ・ロシア～ソ連の歴史
- ・フレイル予防について
- ・食の未来
- ・夏目漱石の文学
- ・現代俳句

3. 本講演をどこでお知りになりましたか

① 市民大学からのお知らせ	18	48.6%
② 市民大学のHP	0	0%
③ 掲示板ポスター	5	13.5%
④ お知り合いからのお誘い	2	5.4%
⑤ 市広報	9	24.3%
⑥ 公民館便り	1	2.7%
⑦ その他	2	5.4%
合　計	37	

4. 回答者の属性について

性 別

項 目	男性	女性	合計
性 別	16	16	32
割合 (%)	50.0%	50.0%	100%

年 齢

	50 歳以下	51～60 歳	61～70 歳	71 歳以上	合計
年齢 (人)	0	1	9	24	34
割合 (%)	0%	2.9%	26.5%	70.6%	100%

5. 富士見市民大学全体に関する要望など御座いましたらご記入ください。

- ・手話通話、要約速記者 素晴らしかった。
要約速記の画面の一部が光って消えたのは残念
- ・継続されていることが有り難い。久しぶりなので先ずは参加させていただき
ます。
- ・色々な企画していただき感謝している
- ・次回も参加したいと思います
- ・文学講座も鶴瀬公民館で開催していただけると嬉しいです

報告 辻 明